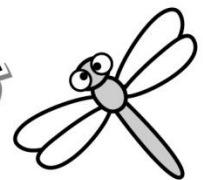


2009年度

# 自然遊学館わくわくクラブ



白木 江都子・日高 学

わくわくクラブは、自然遊学館と協働で自然環境活動を展開するボランティア団体です。自然生態園の維持管理を中心に、見学・観察・体験・調査・発表などの活動に取り組んでいます。

## 活動内容

「自然生態園作業」と「トンボの池と他のビオトープを比べよう」の作業内容については、「わくわく池調べ2009」「自然生態園維持管理」に記載しています。

### ● 日本貝類学会公開講演会関連イベント「打ち上げ貝の標本作り」

2009年4月4日～5日 参加者：延べ28人

大阪市立自然史博物館のワークショップに参加  
ワークショップで必要な貝を、事前に二色の浜へ拾いに行きました。  
ワークショップ参加者から、当日受付で¥100徴収しました。

- ① 紙皿と特殊のりと用意した貝殻の中から5個。
- ② クレンジングクリームで貝を磨く。
- ③ 紙皿に貝を特殊糊で貼り付ける。
- ④ 見本の貝を参考にして貝の名前を調べ、ラベルを貼る。

ワークショップ参加人数 4月4日：51人 / 4月5日：41人



会場に展示された児嶋格先生所有の「大阪湾の貝」について、児嶋先生から説明をしていただき、展示撤収のお手伝いの際には、いろいろな貝に直接触れることができ、貝ファンの子どもたちは喜びました。

### ● 自然生態園作業

2009年4月11日 参加者：13人



### ● 大阪府立少年自然の家合宿

2009年4月18日～19日 参加者：19人

クラブの今年度活動方針や計画を話し合うために、土曜日夕方から日曜日にかけて合宿をしました。  
宿泊し、一緒に食事をし、自然生態園のパンフレット改訂や助成金の執行方法・行事の決定や活動内容など、話し合いの内容は多岐にわたりました。



### ● 自然生態園作業

2009年5月9日 午前中 参加者：20人

## ●二色の浜の海辺の植物調べ

2009年5月9日 午後

自然生態園作業を午前中に終え、午後からは毎年行っている「二色の浜の海辺の植物調べ」に出かけました。ハマヒルガオ・ハマボウフウ・オカヒジキ・ツルナ・コウボウムギ・コウボウシバ・ハマゴウ・ホコガタアカザを確認することができました。

## ●「トンボの池と他のビオトープと比べよう」

2009年5月26日 参加者：7人 場所：和泉市信太山 南谷池

## ●「トンボの池と他のビオトープと比べよう」

2009年6月21日 参加者：11人 場所：生駒市西畑地区棚田ビオトープ

生駒西畑地区棚田クラブの方々は、まず現地へ車の誘導、公民館に着くとスケジュール説明、公民館の中で皆さんと一緒に弁当を食べたときは、棚田の収穫野菜がたっぷり入った味噌汁、午後は2時間以上に及ぶ現地案内、反省会では手作りおやつと熱いもてなしをしてくださり戸惑うほどでした。午前中、生駒棚田クラブに出入りされている森本静子さんの先導で、棚田の中に作られた池(アサザが移植されている)の生きもの調査をしました。



## ●「トンボの池と他のビオトープと比べよう」

2009年6月23日 参加者：12人 場所：貝塚市馬場「たわわの池」

## ●自然生態園作業日

2009年7月11日 参加者：12人



## ●兵庫県成ケ島 生物観察会

2009年7月20日 参加者：20人

午前9時に淡路島SAで集合、陸路を走って9時50分に渡し舟乗り場に到着、渡し舟で成ケ島へ運んでもらいました。時々少雨で暑さもしのぎやすい天候の下、児嶋先生と鈴子佐幸さんは胴長を着用して干潟の貝を採集、花野さんの案内で島内を散策するグループや、イカ釣りに没頭する人、前回の漁を夢見てアサリ採りに夢中のご夫婦、大人に負けまいと貝採集する江本大地君(43種採集)など、それぞれが自分に合った楽しみ方で1日を過ごしました。



貝類：サビシラトリ・ヒメアサリ・オニアサリ・ヨメガガサ・ベッコウガイ・カモガイ・イシダタミ・レイシガイ・トマヤガイ・ヤツシロガイ・ヤマトクビキレ・ウラシマガイ・ミヤコボラ・アラレガイ・クボガイ

植物：ハマゴウ・ハマボウ・ノランジン・ハマナデシコ・ハマダイコン・ハマボス・ハママツナ・ハマウド・ハマサジ・ハマスゲ・ツルナ・ハマユウ・ハマエンドウ・ハナナタマ



(水生昆虫) フタスジモンカゲロウ・クロイトトンボ属の一種・モノサシトンボ・オニヤンマ・タカネトンボ・フタスジサナエ・シオカラトンボ・コバントビケラ属の一種(以上、幼虫)・マツモムシ・コマツモムシ・マメゲンゴロウ・ルイスツブゲンゴロウ(以上、成虫)

(水生動物) クロヨシノボリ・ミズムシ・ニホンアカガエル

(鳥) エナガ・メジロ・シジュウカラ・ヤマガラ・ヒヨドリ・シロハラ・コゲラ・カワセミ

(植物) 水草: フトヒルムシロ・ハリマノフサモ

木本: カマツカ・ノイバラ・フユイチゴ・ツルウメモドキ・サンショウ・シロダモ・ヒサカキ・ヤブツバキ・ネズミモチ・サルトリイバラ・ツゲ・フジ・スギ・スイカズラ・イボタ・カクレミノ・ハンノキ・カヤ  
草本: ジャノヒゲ・ベニシダ・ウラジロ・フモトシダ

記録: 白木江都子

## ●ムササビの巣箱作り

2010年3月7日 参加者: 17人

3月5日に大阪府りんくう公園で山積みされていた伐採木の中から、直径40cmほどの材を選び、長さ40cmに切り、それを真っ二つに切断してもらったので、3月7日の当日は、午前10時から大阪府立少年自然の家クラフト室で用意した材の中心部からノミで彫り始めました。

材が大きくて硬いのでなかなかかどらない

作業を見かねて、少年自然の家の職員左神さん(ムササビが営巣した農機具小屋の持ち主)がチェーンソーを持ち出し、くりぬき作業が一挙に早まった。最後まで手彫りにこだわった班もありました。木屑などの掃除は大変でしたが、子どもたちがみんな熱心に手伝ってくれたので意外に早く片付き、雨の中を左神さんが、ムササビが営巣している農機具小屋を見に連れて行ってくださいました。



## ●ヒノキの杭づくり

2010年3月22日 参加者: 12人

トンボの池の杭を打ちかえるために、自然生態園をつくる会会長山口進さんの持山からヒノキの間伐材を切り出しました。山は急斜面のため作業のできる人は限られ、会長と数人にお任せして、その間にツクシ・ゼンマイ・セリ・タンポポ・ノアザミ・スミレ・レンゲ・カキドオシなど春の野草摘みを楽しみました。

切り出されたヒノキ間伐材を搬出し、昼食後丸鋸で120cmの長さに切断してもらい、手作りの竹ベラでヒノキの皮を剥きました。また丸鋸を使って材の先を尖らせ、35本の杭が完成しました。



## ●近木川定点観測

場所: 大阪府二色の浜公園

潮騒橋の上から見た河口側の干潟写真



2009年05月  
喜多 理恵



2009年07月  
城野 美城子



2009年10月  
白木 茂



2009年12月  
鈴子 佐幸



2010年02月  
白木 茂



## ●「トンボの池と他のビオトープと比べよう」

2009年11月23日 参加者：12人 場所：貝塚市馬場「たわわの池」

恒例の池さらえです。午前中は、池周辺の草刈と並行して池の中の生きものを網ですくい、講師の向井さんに同定してもらい、数を数えました。  
午後から池の水を抜き川に流し、流れの中から生きものを救出しました。



## ●「トンボの池と他のビオトープと比べよう」

2009年11月29日 参加者：5人 場所：生駒市西畑地区棚田ビオトープ

午前10時ごろ棚田の池に着いたが、寒い上に池の水が抜けてしまっていて、アオミドロなどは底にへばりついていました。

採集したもの：ユスリカを捕食中のナミシビル・ゲンゴロウ科の幼虫・エグリトビケラ科スジトビケラの仲間・オオシオカラトンボのヤゴ・マメゲンゴロウ・ミズムシ・サカマキガイ・ツチガエル

## ●児嶋果樹園ハッサク収穫手伝い

2009年12月23日 参加者：25人

午前9時30分紀川市桃山町向山に集合し、10時から剛力班・収穫班・選別班に分かれて作業を開始しました。

今年は、1本のハッサクの木に4～6人が張り付き、果実を全部収穫してから次の木に移る方針が進めましたが、異例の大豊作で、穫りきれずに終わってしまいました。



## ●「トンボの池と他のビオトープと比べよう」

2010年1月31日 参加者：10人 場所：阪南市貝掛「的場池」

自然と本の会のメンバー3人を合わせて10人で、水生昆虫と周辺植物の調査をしました。

## ●「トンボの池と他のビオトープと比べよう」

2010年2月14日 参加者：14人 場所：阪南市俎石山「タコ池」

この池をフィールドにしておられる「阪南市自然と本の会」メンバー5人との合同調査になり、講師は向井康夫さんをお願いしました。水生昆虫班は、胴長を履いて池の浅瀬や周辺を30分間夕暮網で採集しました。

植物は白木江都子が、岸辺から池中や周辺植物を調べました。陸地化した岸辺には、シロダモとサンショウが多く、サンショウは

黒い実を数多くつけて萼の赤との対比がきれいでした。池中にはフトヒルムシロと、後に梅原徹さんに同定していただいたハリマノフサモがクロヨシノボリをすくった夕暮網にひっかかって採集されました。

ハリマノフサモは、仮称ハリマノフサモで、まだ正式には記載されていなくて学名もないそうです。倒木に生えていたキノコは、自然史博物館の佐久間大輔学芸員によって、エノキタケと同定していただきました。淡水の池なのに、温暖な海域に面した、流れが速い小川に分布するクロヨシノボリがいることを本と自然の会三宅壽一さんから教えていただき、容易に見つけることが出来ました。





## ● 自然生態園作業日

2009年 10月10日 参加者：9人



## ● 橿原市昆虫館見学会と友の会交流会

2009年 10月18日 参加者：21人(橿原市昆虫館友の会：38人)

午前9時貝塚市役所駐車場に集合し、北川さん運転のレンタカーマイクロバスで橿原市昆虫館に向かいました。10時20分に昆虫館に到着し挨拶を交わした後、大人は日比伸子学芸員の案内で里山に入り、昆虫館の里山ボランティアの人たちと一緒に斜面のネザサ刈りをし、子どもたちは保田先生の案内で昆虫館バックヤード見学をしました。それぞれ1時間ほどで終了し、宮武頼夫友の会会長の案内で裏山の昆虫観察に出かけました。



オオカマキリ・ハラビロカマキリ・チョウセンカマキリ・キマワリ・ジャコウアゲハの蛹などを発見し、周囲が里山で常に生きものと接することのできる環境を羨ましく思いました。昆虫館玄関前の階段に座りみんなで弁当を食べた後は、館内に戻って、昆虫珍味やドングリのクッキー、ムカゴご飯などをいただくなど歓待してもらいました。

## ● 「トンボの池と他のビオトープと比べよう」

2009年 11月10日 参加者：4人 場所：和泉市信太山南谷池

## ● 大阪自然史フェスティバル2009

2009年 11月14日～15日 参加者：20人

今回は、トンボの池ヤゴ抜け殻のアクリル封入標本と、自然遊学館わくわくクラブ紹介パネルをブース展示し、ブースを訪れた子どもたちにクラフト「バランストンボ」を作ってもらいました。出展団体は89、入場者数は2日間で13,000人だったそうです。



## ● 「トンボの池と他のビオトープと比べよう」

2009年 11月19日 参加者：5人 場所：阪南市貝掛「的場池」

的場池の調査後、岩崎さんの案内で、今後の調査池として興味のある俎石山のタコ池へ行ってみました。

## ●第20回全国トンボ市民サミット横浜大会

2009年7月25日～26日 参加者：2人

今年のトンボサミットは、「いーじゃんまちたんぼ、いーじゃんまちとんぼ」をテーマに、横濱開港150周年を記念して横浜市内で開催されました。

エクサカーションは「京浜臨海部に於ける、企業、行政、市民が一体となった取り組み紹介」を選びましたが、このコースのテーマは「都市自然の創出—トンボの生息環境における企業緑地、公園の役割」です。

都市自然の創出に努力する企業を無料バスで見学することが日常的に可能と聞いて、さすが先進都市横浜、と大変羨ましく思いました。

## ●海辺の楽校

2009年8月2日～3日 参加者：11人

和歌山県日高郡由良町で行われ、湯浅町の山田山ログハウスに宿泊しました。

岡田恵司さん所有の「快釣丸」を出していただき、シュノーケリング・釣り・磯観察・舟で遊覧などと盛りだくさんのメニューを楽しみ、夕食は、海での採集物を料理し、たこ焼き(残念ながらタコは購入)も焼きました。

## ●大阪市立自然史博物館「ほねほね展」鑑賞

2009年8月20日 参加者：5人

自然遊学館わくわくクラブの会員で、観察会でもお世話になる西澤真樹子さんが団長を務める「なにわホネホネ団」で作られた骨格標本を始めとして、さまざまな動物の骨格標本が展示されていました。

## ●自然生態園作業(バッタ調べと鳴く虫の声をきく)

2009年9月12日 参加者：27人

講師：森康貴さん

14:00～16:00 自然生態園作業

16:00～17:30 雨の中バッタの原っぱバッタ調べ

19:00～20:30 鳴く虫観察会

バッタ調べではマダラバッタとホシササキリの数が多く、鳴く虫の声は、ミツカドコオロギとハラオカメコオロギの聞き分けが難しかったです。



## ●アクリル封入標本作り

2009年10月5日・19日 参加者：6人

トンボの池で採集したヤゴの脱け殻を、森本静子さんの指導を受けながらアクリル樹脂で固定し、ヤゴの種類の違いを見分けてもらえるようなアクリル封入標本ができました。

